



清流をたたえる巫女淵

◇清流渦巻く淵

赤石山脈は、南北約一〇〇キロ、東西一〇〜三〇キロに及ぶ日本の屋根であり、富士山に次ぐ高さを持つ北岳(三一九二メートル)を始め三〇〇メートル級の山々がそびえています。

この山の北西部、長谷村の浦国有林に石灰岩の間を激しく流れる三峰川によって岩が削られ流水が渦巻く「巫女淵」という大きな淵があります。

「巫女淵」の謂われの一つを紹介すると、昔、源氏に敗れた



平家の落ち武者が浦というところに住み着きました。この時、同行した白拍子(しらびょうし)が、その場所は山間で狭い土地しかなく同居していくことはままならなかった。神に仕える白拍子は自分が身をひくことが一番だと決心し三峰川を遡ってこの大きな淵を死ぬ場所と決めて淵に身を投げたといわれています。

後に巫女の残した鈴を祀ってその霊を慰めたと謂われております。両岸の石灰岩は標高差約七〇〇メートルの断崖を築き、太平洋側から押し寄せるプレート活動や中央構造線などの断層活動により、川の流れを一八〇度以上変えるほどの折りたたみ現象が現れており、この場所は「大曲」と呼ばれています。

積雪期が開け、春の芽吹き、夏の涼み、秋の紅葉と変化に富んだ景色を楽しませてくれます。(現在、巫女淵特定地理等保護林に指定。)

◇アクセス方法

中央道伊那ICから国道一五二号経由で、長谷村市野瀬から県道二一二号線に入り、さらに杉島集落より三峰川林道を約五〇分程入り、一〇分程歩いた場所にあります。